

<https://language.sakura.ne.jp/scweb/index.html>

2025/4/3 神戸大学国際文化学研究科新入生ガイダンス

「日本語教師養成サブコース」について

日本語教師養成サブコース運営委員会 委員長 石川慎一郎 iskwshin@gmail.com

1. 日本語教師の資格はどう変わったか？

2024年度より、国の新制度が始まり、国内の認定日本語学校で教えるには、「登録日本語教員」という**新しい国家資格**の取得が必須になりました。新制度においては、日本語教員と日本語学校の各々に厳格な基準を設けることで、日本語教育の質を上げることを目指しています。(※なお、海外の学校で教えたり、国内でボランティアで教えたりする際には資格は不要です)

2. 日本語教師職の将来性は？

外国人就労者数の急激な増加という背景もあり、国内における日本語教育のニーズは増大しており、**優秀な日本語教師の養成と確保は国策**として進められています。また、実際に日本語教師にならない場合であっても、日本語教育の知見とスキルをもった研究者、学校教員(国語・英語等)、行政職員、企業社員に対するニーズはさらに大きくなっていく見込みです。

3. 登録日本語教員になるには？

通常は、<指定された内容の学修>→<基礎試験合格>→<応用試験合格>→<教壇実習>という4ステップが必要です。一方、国の審査を通過した「登録日本語教員養成機関」において実習を含む全課程を終了した者は、上記のうち、**応用試験受験以外の全ステップが免除**されます。応用試験を受けない場合でも、「養成課程修了資格」(=応用試験の受験資格)が得られます。

4. 神戸大学「日本語教師養成サブコース」とは？

神戸大学大学院国際文化学研究科「日本語教師養成サブコース」は、国の認定した**登録日本語教員養成機関**の1つであり、**神戸大において、登録日本語教員資格を目指せる全学で唯一のコース**です。国際文化学研究科の正規の大学院生であれば、**所属する専攻・コースにかかわらず**、だれでも参加申請することができます。本サブコースは、学生が自身の専門にプラスして学ぶ副専攻相当のプログラムとして位置付けられており、1学年定員12名を超えない人数であれば、希望すれば原則として全員が受け入れられます。

5. サブコース修了にはどの科目を取る必要がありますか？

サブコースの修了には、**(1)必修講義科目8科目(16単位)、(2)選択講義科目として12科目の中から各自が選んだ5科目(10単位)、(3)必修実習科目1科目(2単位)のすべてに合格することが必要**です。サブコース履修を希望する方は、事前に指導教員と相談の上、**自コースでの学修に加えて、2年間で以下の14科目(28単位)を履修できる見込みがあることを確認**してください。

分野の重なりがあるため、言語系コース（言コミ・感コミ・外コン・外シスなど）の所属学生であれば、サブコースのために追加履修が必要な授業は相対的に少なくなります。一方、過去には、言語系以外のコースに所属する学生であっても、サブコースを履修し、修了された先輩も相当数おられます。

必修科目（講義 8 科目+実習 1 科目）	選択科目（12 科目中より 5 科目選択）
<p>●M2 前期までに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第二言語習得論（田中） 2. 日本語教育方法論（齊藤） 3. 日本語教育応用論（川上） 4. 言語コミュニケーション論演習（川上） 5. 外国語教育コンテンツ論演習（石川） <p>●M2 後期までに</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 外国語教育内容論Ⅱ（石川） 7. 言語行動科学論（林） 8. レトリカルコミュニケーション論（小松原） <p>●M2 後期に</p> <p>日本語教育実践演習（齋藤・川上）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人類学（大石） 2. 越境社会文化論（辛島） 3. 言語慣用類型論（石田） 4. コミュニケーション認知論（松本） 5. 言語対照基礎論（高橋） 6. 外国語教育工学論（柏木） 7. 言語対照応用論Ⅰ（芹澤） 8. 越境文化論演習（辛島） 9. 言語コミュニケーション論演習（田中） 10. 言語コミュニケーション論演習（小松原） 11. 感性コミュニケーション論演習（松本） 12. 感性コミュニケーション論演習（林）

※それぞれの科目が前期開講か後期開講かは、時間割で各自で確認のこと。年度により開講されない科目があるため要注意。代講者による科目は不可。上記教員が担当する授業のみ該当。

6. サブコースに申し込むにはどうすればよいですか？

- (1) この書類を示した上で、指導教員に申請の許可を取る。
- (2) 下記フォームより、4月10日（木）23:59までに申請する。

<https://bit.ly/kobenihongo>

(bit ドット ly スラッシュ こうべにほんご)



申請に必要な情報

- ・氏名、コース、教員許可取得済み確認、修論予定テーマ
- ・申請動機
- ・過去の日本語教育とのかかわり
- ・将来のキャリアパス（国内教師、海外教師、研究者、ボランティア等への就労意欲など）
- ・必修科目の履修計画（2年間で8科目の各々をいつ取るかの計画）
- ・選択科目の履修計画（5科目としてどれを選ぶか、それぞれいつ取るかの計画）

7. 申請にあたっては、どのようなことを確認すべきですか？

- サブコース修了には指定された13科目(26単位分)の合格が必要であり、さらに実習科目(2単位)の合格が必要であることを理解しています。
- 上記科目が自身の所属コースに含まれていない場合、専門分野の学修に加えて、相応の負担が発生することを理解しています。
- 申請に先立ち、制度の概要や、履修が必要となる科目の数と内容を指導教員に各自で説明したうえで、指導教員の下承を取っておく必要があることを理解しています。
- 2年次前期までに指定5科目全科目に合格できていない場合、2年次後期の実習が受けられず、サブコースを修了できなくなることを理解しています。
- サブコース修了で得られるのは「応用試験」受験資格であり、コース修了後、さらに「応用試験」を受験して合格しない限り、「登録日本語教員」になれないことを理解しています。
- サブコースにおいては「応用試験」の受験対策は行っておらず、「応用試験」の準備は各自の責任で行うべきものであることを理解しています。
- 定員管理がなされているため、サブコースの受講が認められた場合は、途中離脱せず、修了を目指すべきであることを理解しています。
- 海外で日本語を教えたり、日本国内で、日本語学校<以外>で日本語を教えたりする際には、「登録日本語教員」資格が必要でないことを理解しています。
- サブコース運営委員会としては、日本語教育関連の専門《以外》の方もできるだけ幅広く受け入れたいと思っていますが、万一定員を超える希望が出た場合は、専門の近さや将来の職業意向をベースとして選考を行うことを理解しています。
- 受講の可否の決定通知は、4/14(月)の夜に、上記に記載した各自のアドレス宛に届くことを理解しています。

8. サブコースに関する情報はどこで読めますか？

<https://language.sakura.ne.jp/scweb/index.html>

修了生のビデオインタビューも掲載されています。ぜひ参考にしてください。



9. サブコースの先生に相談したい場合は？

日本語教師養成サブコース運営委員会

外コン: 石川慎一郎 (iskwshin@kobe-u.ac.jp)

言コミ: 川上尚恵 (kawakami@sapphire.kobe-u.ac.jp)

言コミ: 齊藤美穂 (msaito@people.kobe-u.ac.jp)

感コミ: 林良子 (rhayashi@kobe-u.ac.jp)